

企画・制作／中日新聞広告局 協力／ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、株式会社 日本エム・ディ・エム、株式会社マティス

中高年に発症しやすい「変形性股関節症」って？

「変形性股関節症」は、脚の付け根にある「股関節」が変形し、進行すれば日常生活が著しく損なわれる病気です。高齢者だけでなく、働き盛りの女性にも多く発症するため、放置すれば本人だけでなく家族の生活にも影響します。適切な対応のためにはどうすればいいか、藤田医科大学病院の森田充浩先生にお聞きしました。

40代から60代の女性に多い「変形性股関節症」

「股関節」とは、太ももの骨（大腿骨）の先端にある丸いボール状の「骨頭」と、骨盤側で受け皿となるお椀のような「寛骨臼（かんこつきゅう）」が対になった脚のつけ根の関節です。このスムーズな動きが損なわれるのが「変形性股関節症」という病気です。

主な症状は、脚の付け根、太ももや膝、お尻の痛みや違和感などがあり、自覚症状が「股関節」に限定されないため、最初は自己判断で市販薬を用いたり、ハリ治療などを受ける人も見られます。やがて痛みがおさまらず整形外科を受診し、「立位」レントゲン撮影（図1）で、関節の隙間の消失や骨頭の变形などが認められ初めて「変形性股関節症」と診断される患者さんも少なくありません。

「変形性股関節症」の主な原因には、寛骨臼が先天的に小さく、骨頭とよく噛み合わない「寛骨臼形成不全」があります。これは日本人の女性に多く、気付かないまま40～60代の中高年期になって痛み出す場合がほとんどですが、中には20代で発症する人もいます。

また、近年は人口の高齢化に伴い、加齢による軟骨のすり減りによって発症する患者さんも増加傾向にあります。

耐久性向上で増加傾向の「人工股関節置換術」

「変形性股関節症」の治療法は、患者さんの年齢や進行具合に応じて

「骨切り術」に比べて「人工股関節置換術」は術後の回復スピードが格段に速く、術後は転倒リスクの少ないスポーツであればほぼ問題なく楽しめます。

「人工股関節」ですが、近年は素材が飛躍的に向上し、30～40年以上も持つようになりました。そのため耐久性の問題で「人工股関節置換術」を選んでいた若い患者さんや、早期の社会復帰を優先する患者さんにも選択されるようになり、手術件数は増加し続けています。

適切に対応するために患者さんも正しい知識を

また、進歩したのは「人工股関節」だけではありません。「人工股関節置換術」の最も多い合併症に「脱臼」がありますが、股関節の後方（おしり）から切開していた術式を、前方から最小限の皮膚切開で行う低侵襲手術（MIS）の前方アプローチにすることで、脱臼を切らなくすむようになり、術後脱臼を劇的に減らせるようになったほか、外側の腕の「サイズ」も約8cm程度と小さくなりました。

ただし、これらの手術は術者の経験と技術に支えられているものです。複数ある「人工股関節（図2）」の候補の中から個々の患者さんに適したものを選んでもらえるかなど、医療機関によって差が出てきます。ほかの病気同様、大切なことは全てを医師任せせず、患者さん自身で医療機関・医師を選ぶ目利き力です。「変形性股関節症」は決して珍しい病気ではありません。誰にでもリスクがあることを知り、早期に適切な対応をとるためにも、病気に



藤田医科大学病院 整形外科 准教授 森田 充浩 先生

① 変形性股関節症は「立位」レントゲン撮影で診断します

「変形性股関節症」は、基本的に「立位」で撮影したレントゲン画像で診断し、状況に応じてCTやMRIなどの画像検査を加えます。

関節裂隙（かんせつれき）の狭小化、溝状（こうじょう）の形成、骨硬化（こつこうか）の出現、その他、可動域の低下、骨頭の寛骨臼、深長の短縮の骨質が治療の参考になります。

※寛骨臼（かんこつきゅう）
※大腿骨頭（だいたいこつとう）
※大腸骨頭（おほちようこつとう）



② 種類が豊富な「人工股関節」

「人工股関節」にはさまざまな種類があり、患者さんの大腿骨形状や骨質に合わせて最適なものを選択します。



「適切な対応をするために患者さんも正しい知識を」

また、進歩したのは「人工股関節」だけではありません。「人工股関節置換術」の最も多い合併症に「脱臼」がありますが、股関節の後方（おしり）から切開していた術式を、前方から最小限の皮膚切開で行う低侵襲手術（MIS）の前方アプローチにすることで、脱臼を切らなくすむようになり、術後脱臼を劇的に減らせるようになったほか、外側の腕の「サイズ」も約8cm程度と小さくなりました。

ただし、これらの手術は術者の経験と技術に支えられているものです。複数ある「人工股関節（図2）」の候補の中から個々の患者さんに適したものを選んでもらえるかなど、医療機関によって差が出てきます。ほかの病気同様、大切なことは全てを医師任せせず、患者さん自身で医療機関・医師を選ぶ目利き力です。「変形性股関節症」は決して珍しい病気ではありません。誰にでもリスクがあることを知り、早期に適切な対応をとるためにも、病気に

適切な対応をとるためにも、病気に

関節の痛み・股関節の痛みで悩んでいる全ての皆さまへ

関節が痛いドットコム 検索 <https://www.kansetsu-itai.com/>

「関節が痛い」は人工関節と関節痛の情報サイトです。